

秋の街歩き・・・目白から早稲田界隈へ

本日は、2024年9月14日(土)・・・『秋?』 いえいえ、近年の異常気象のためか、残暑ならぬ猛暑のなかでの『秋の街歩き』となりました。

参加者は、栗田、土谷、安松、濱田、久保田、宮川夫妻、小林(太)さんの面々に豊島区地域支部の松永さんも加わり、総勢9名です。スタートは、JR 目白駅から……。

バスで目白台三丁目に向かい、歩いてほど近い、「肥後細川庭園と永青文庫」を訪ねます。



永青文庫

元は熊本藩細川家の下屋敷跡で、明治以降は細川家の邸宅として使われていた場所。嵐山を模した池泉回遊式庭園とその一角に細川家に伝来する貴重な歴史資料や美術工芸品を多数所蔵し、一般に展示公開している史料館があります。



今回は、夏季展示として、細川家2代目当主忠興が織田信長より拝領したという、「九曜紋」をテーマとした数々の貴重な品々が公開されていました。



鬱蒼とした木々を抜ける心地よい風に癒され、お庭を半周し、続いて向かったのは、早稲田大学です。

大隈講堂を左手に仰いで構内をしばらく歩き、作家の村上春樹氏が所蔵する膨大な書籍や資料の寄贈・寄託を受け、建築家の隈研吾氏の手により旧4号館を大改修して2021年にリニューアルオープンした、未来型図書館「国際文学館 村上春樹ライブラリー」を訪問しました。



館内を自由に見学後、構内を通って漱石山房記念館を目指します。構内にある立看板は、我々が学生時代に見慣れたものとは異なり、大きさも統一され、控えめにお行儀よく並んでおり、時代の移り変わりを感ぜさせます……。

地下鉄東西線の早稲田駅前に出て夏目坂をてくてく歩いて、「新宿区立漱石山房記念館」を訪ねます。

時代を超えて読者の心をとらえ、幅広い世代に愛読されている文豪夏目漱石は、新宿生まれの新宿育ち、その生涯もこの地で閉じたとのことです。

館内には、漱石にちなんだ数々の資料が展示されているほか、最晩年の9年間を過ごした旧居「漱石山房」の一室も精巧に復元されており、漱石を慕う友人や門下生たちが集った日々を思いをはせることができます。



暑いなか無事、今回の街歩きも終了し、早稲田の居酒屋で反省会。
何とビールの美味しいことか！！

(撮影・報告 宮川孝之)